西中図書だより

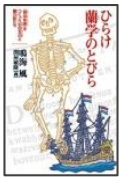
　すっかり秋めいて、正倉院展、国宝展と素晴らしい展覧会が目白押しです。
そんな中、神戸にある兵庫県公館県政資料館で「岡田淳の世界」児童文学作品原画展が 11 月 18 日まで開催されています。岡田さんは 1947 年兵庫で生まれ、大学卒業後、小学校の図工の教師になります。2017 年兵庫県文化賞も受賞されました。代表作に「びりっかすの神さま」「ふしぎの時間割」があります。西中学校の図書館にも岡田淳さんの本が沢山あるので読んでくださいね。
10 月の貸出し冊数　１年 659 冊・２年 315 冊・３年 212 冊（学級文庫、教科貸し含む）

新着本

[ときめき百人一首」	小池昌代	河出書房新社
「いちばん身近な憲法・人権の話」	池上彰	学研プラス
「心が折れそうなときキミに力をくれる奇跡の言葉」	ひすいこたろう	SB クリエイティブ
「ライバル・オン・アイス 1～3」	吉野万理子	講談社
「三びきのコブタのほんとうの話 A.ウルフ談」	ジョン.シェスカ	岩波書店
「税金の大事典」	神野直彦	くもん出版
「ランポオ詩集」	ランポオ（著）中原中也（訳）:	岩波書店
「愚者のエンドロール」	米澤穂信	KADOKAWA

おススメ本

「アルフレートの時計台」　斉藤洋　偕成社
　少年時代をすごした町にもどってきたクラウスは古びた時計台の中で、不思議な体験をします。時の魔法が見せた真実とは・・・。時をこえた少年の日の友情を描いたファンタジー小説です。



「ひらけ蘭学のとびら」　鳴海風　岩崎書店
　まだ人の体のしくみがわかっていなかった江戸時代。罪人の死体を観察し、内臓のつくりがオランダの解剖書にある絵とそっくりだと気づいた医者たちがいました。彼らはオランダ語を知らない、辞書もないという困難を乗り越えて、その本を翻訳しました。その医者のひとり杉田玄白と幼少期から「解体新書」完成までの物語です。

11 月の開館日

月	火	水	木	金
6		8	9	10
13	14			17
20				
27	28	29		

11 月から学習優先の日の放課後 16 時～17 時まで開館しています。（14 日の放課後）